

そう だい お じだい い びと てがみ
総 題 「終わりの時代に生きる ヘブライ人への手紙」

だいいっ か びと わたし てがみ
第1課 ヘブライ人と 私たちへの手紙

はなだのりひこ
花田憲彦

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

かみさま せいしよ なか すく ひと かんぜん せつきょう のこ
神様は聖書の中に少なくとも一つだけ「完全な説教」を残してくださいました。

それが、パウロによるヘブライ人への手紙で、現存する最も古い「完全な形のキリスト教の説教」と言われています。

これは当時の困難な状況の中に置かれていた信徒たちに向けて書かれた手紙です。

さまざまな試練の中にあつて、信仰が試みられている信徒たちを励ますために書かれたこの手紙は、天の聖所におられるイエス・キリストを見つめ続けるように強く訴えかけます。

同時に、そのメッセージは、終わりの時代に生きる私たちの信仰を奮い立たせます。

に にちようび かがや はじ
2. 日曜日：輝かしい始まり

しょだいきょうかい じだい かみさま ふ し ぎ わざ あか
初代教会の時代、神様は「しるしと不思議な業」をもって、キリストを証しされました。

そのために神様は、信徒たちに聖霊の賜物を分け与えることによって、彼らを用いて多くの病人を癒し、悪霊にとらわれ苦しめられている人々を解放し、力強い宣教の業を進められました。

聖霊に満たされた彼らの祈りは大胆で確信に満ち、その信仰経験は喜びに満たされていました。

彼らの心の中には、すでに「神の国」が到来していたのです。

さん げつようび かっとう
3. 月曜日：葛藤

へぶらい じゅう さんじゅうに さんじゅうよん じゅうさん さん よ
ヘブライ10：3 2～3 4と13：3を読んでください。

ここに彼らが経験した迫害の様子を見ることができます。

彼らがイエス・キリストを信じる信仰によって堅く立てば立つほど、社会からは異質な存在として見られるようになっていきました。

同時に、彼らの清さや正しさ、献身した姿は、汚れた生活をしている人々にとっては、自分が責められるように感じさせてしまうのです。

自分の不徳を責められ、後ろめたさを感じるようになった人々は、クリスチャンたちへの反発を強めていきました。

じぶん たい じぶん じしん りょうしん せ いまし かん くる しずめ
 自分に対して、自分自身の良 心からの責めや咎 めを感じ、苦しむこと」を静めようとしたのです。

パウロは、キリストのゆえに苦しめられている同胞を励まそうとこの手紙を書いたのです。

よん かようび けんたいかん
4. 火曜日：倦怠感

どんな信仰者であっても、社会から拒絶され、激しい迫害を受け続けると、信仰に疲れ、喜びが失われ、希望が見えなくなってしまうことがあります。

かれ　せいれい　ちようしぜんてき　わぎ　み　だい　けいけん　かさ　はくがい　しれん　なか　けいざいてき
 彼らは聖霊の超自然的なみ業を見、大リバイバルを経験しましたが、たび重なる迫害と試練の中で、経済的
 しんりてき　じようもう　つか　は　きぼう　うしな
 にも心理的にも消耗し、疲れ果て、希望を失いそうになっていました。

れつおうきじょうじゅうきゅう いち よん いんよう いたい よげんしゃ しれん なか しんこう
 テキストには列王記 上 1 9 : 1～4 が引用されていますが、あの偉大な預言者エリヤも、試練の中で信仰の
 ざせつ も つ けいけん
 挫折と燃え尽きを経験しました。

あなたは、そのような信仰経験をしたことはありませんか？

わたしにはあります。でもそんな時、私を救ってくれたのは、聖書のみ言葉でした。

問 4 に、ヘブライ人への手紙の中からいくつかの箇所が引用されていますので、すべての箇所を調べ、祈りのうちに深く瞑想してみてください。

せいしょ はげ ことば わたし ふたた た あ ちから
聖書の励ましの言葉は、私たちを再び立ち上がらせる力があるのです。

ご すいようび いっちだんけつ
5. 水曜日：一致団結する

預言者エリヤは、燃え尽きてしまい、すべてを置いて逃げ出しました。

「^{かみさま}神様、^{わたし}私を殺してください」と、^{みずか}自らの死を望む^し極度^{のぞ}のうつ^{きょくど}状態^{じょうたい}です。でも愛に満ちた^{あい}神様^みは、^{かみさま}エリヤ

が、この^{させつ}挫折を^{こくふく}克服できるように^{たす}助けてくださったのです。

まず、天使を遣わし、食物を備え、肉体的な休養を与えてくださいました。

わたし　せいねんじだい　おお　　ざせつ　けいけん　　へ　や　ひ
私は青年時代、大きな挫折を経験して、部屋に引きこもってしまったことがありました。

でも、両親は私を責める言葉は一切言わず、ただあたたかく迎えてくれたのです。

しごと ひ むすこ たい い おも なに い しょくじ
仕事もせず、引きこもっていた息子に対して、言いたいことはたくさんあったと思うのですが、何も言わず、食事

つく みまも おも だ
を作ってくれ、見守ってくれていたことを思い出します。

この時、天使はエリヤに触って、食事を提供しました。彼の弱さを責めず、ただ「起きて食べなさい」と言われたのです。

エリヤは、ありのままの自分を受け止めてくれる神様の大きな愛に触れたのです。

迫害の中にあつたクリスチャンたちに必要なのは、この神の愛に触れることでした。

問 6 に挙げてある聖句を読んでみましょう。パウロは、イエス様が天において彼らを執り成しておられることを

思い起こさせ、信仰をしっかりと保ち、互いに励まし合うように勧めたのです。

6. 木曜日：終わりの時代

問 7 に挙げられている聖句を読んでみましょう。

パウロは、この時代が「終わりの時代」であることを強調し、それにふさわしい信仰を持ち、生きることを強調しています。

パウロは、出エジプトをしたイスラエルの民が、カナン^ちの地に入る直前に経験したと重ね合わせて、その失敗を繰り返すことがないように警告しています。

第一に、信仰を堅く保ち、イエスに目を注ぐこと。第二に、不道德と食欲に警戒すること。

第三に、リーダーたちを見倣い、彼らに従うことなどを勧告しています。

そのパウロの思いの背後にあるのは、「もう少しすると、来るべき方がおいでになる。遅れられることはない」(ヘブライ 10 : 3 - 7) という、再臨の切迫感です。

彼らはカナン^ちの地を目前にして失敗してしまいました。同じ過ちを、再臨によってもたらされる神の国を目前にしているクリスチャンたちに犯してほしくないという切実な願いです。

この勧告は、終わりの時代に生きている私たちアドベンチストに対するメッセージでもあるのです。

7. 金曜日：さらなる研究

テキスト 10 ページにある、『国と指導者』上巻 1 3 3、1 3 4 ページからの引用文を祈りつつ瞑想してみましょう。

今週の学びを通して、試練にあつた時、気持ちが沈んだ時、誘惑にあつた時、どのようにしたら、初めの信仰に立ち帰ることができるのか、どのようにしたら、堅く信仰を保つことができるのか、考えてみましょう。